

スタッフ感想

NPOのスタッフとして働いて

今回、南アメリカと仕事の進め方が違う日本のNPOで仕事をさせていただいたことによって日本人の仕事の方法や考え方について学ぶことができました。そして、同時に第三者の立場でラテンアメリカ人が日々の問題にどのように立ち向かうかを観察することが出来ました。

日本は非常に高い水準で市民を保護する社会ですが、外国人はこの国に来た時から、そのことが分からずに過ごしてきました。

残念ながら、当初は、短い期間の出稼ぎとしか考えていなかったのです。多くの外国人は、(ほとんどではありません)早く資金を貯めて、自分の国で自分の夢を実現することだけ考えていました。いろいろな保険(社会保険、国民健康保険、雇用保険)も持たず、労働法規も知らないまま、仕事をしていました。

しかし、滞在期間が長くなり、問題が表面化してきました。

伊賀地域で私たちのアドバイス事業が始まり、この新しい仕事によって外国人が直面している問題について考え出す事が出来たことは、非常によかったと思います。行政は税金を取るだけだと思っていた人は、この事業によって「どうして行政は私たちの心配をしてくれるの?」と疑問に思った人もいます。

この8ヶ月間、外国人へのアドバイス事業に関わり、信頼を得るためには、心が大切だと思いました。伊賀地域は、日本人社会に違った国籍の人が住む多文化共生の町です。それぞれの民族が同じように持つ普遍的なものがありますが、言葉、習慣、問題に直面する形はそれぞれ違います。このアドバイス事業のメンバーも、外国人と日本人。一緒に仕事をしながら、お互いが理解するためには、心と心のコミュニケーションと理解できる言葉(ごく簡単な言葉)で話し合うことが大切であると感じました。人間関係は、言葉から始まります。

言葉のわからない外国人は、「無言の島」にいるのと同じです。私が前に働いていたところでは、「日本語上手ね」と言われていましたが、今回この仕事をする事で、もっともっと日本語を勉強しなければ、と感じました。私の上司である和田さんは、難しい言葉でも簡単な日本語で言い換え、説明してくれました。

それによって私は、多くのことを学ぶことが出来ました。これこそ、外国人から相談を受ける上での重要なことだと思いました。

外国人の日々の生活は、とても大変なものですが、今回のこのアドバイス事業によって多くの問題(労災、離婚、貧困、いろいろな手続きなど)を解決することが出来ました。そして、この事業を与えて下さったことに感謝すると共に、私にこの仕事を与えてくださった事も感謝しています。

セルヒオ アルベルト ゴメス マルパルティータ

外国人と日本人が共生社会を作るために

まずはじめに、外国人コミュニティのためのこの仕事の機会を与えてくれたことに感謝いたします。

この8ヶ月間、外国人の生活についていろいろな意見を聞くことができました。外国人が直面する困難、トラブル、そして日本に滞在する良さも、もちろん聞くことができました。

外国人がもつ困難について一番多かった意見は、「言葉」です。日本語はとても難しいことがあると思いますが、もしも本当に努力すれば覚えることは可能です。

努力というのは、基本的には外国人がするものだと思いますが、外国人だけの努力ではなく、日本人も理解させるように努力したほうがいいと思います。そうすることによって、外国人がいろいろな日本人と話をする機会が生まれます。私の経験からですが、ある人は自分の言っていることがちゃんと分かっているかどうかをとて心配してくれたり、また、分からなかった場合には、再びゆっくりとやさしく説明してくれたりしました。そして100%の相互理解ができました。しかし、別のある人は、私が理解しているかどうかは関係ない、詳しく説明するのは面倒であり、無駄なことだと思っていると感じました。その場合には、理解がうまくできず、疑問と沈黙の空気になりました。そして、そこからつきあいにくくなっていくと思います。

私の意見ですが、外国人と日本人のつきあいをよくするために、まだまだいっぱいすることはありますが、基本はコミュニケーションだと思います。

子どもの教育、健康、税金、仕事、手続きなどの相談がたくさんありましたが、言葉の問題さえなくすことができれば、ほとんど問題はなかったと思います。

例えば、行政の窓口や形式的な場合に使われている日本語はていねいな言葉です。ブラジルでもそうですが、いい対応をするために必要とされることは、ていねいな話し方だと思います。しかし、外国人に対応する時は形式的なことにこだわるより、外国人が理解できるような言葉をつかったほうがいいと思います。

多くの場合、お客さんや隣の人が外国人と分かったら、日本人は恥ずかしくなったり、不安になったり、ときにはコミュニケーションは不必要だと思い、話かけることもせずにお互いの中で先入観を形づくりします。これが、違う国から来ている人と日本人との間に作られるあの有名な壁を作り始めるのです。そして共生を難しいものにしていきます。この壁をなくすことができれば、一番いいことだと思います。どうすればいいのでしょうか？

それは、今から私たちが考えていくことです。いい始め方は、子どもたちが学校から逃げるのを防ぐことでしょうか。なぜなら、子どもたちが一番、人間形成の途中にいて、影響を受けやすいからです。そして今はとても注意が必要です。

外国人と日本人が共生社会を作るために、いっしょにがんばりましょう。

そのために、私にできることがあれば何でも結構ですのでおっしゃってください。

最後にもう一度、この機会をあたえていただき、ありがとうございました。

弘中 クリスチアネ

スタッフとの信頼関係と相談者の笑顔

私は、今回のアドバイス業務を通して多くのことを学び、知ることができました。このアドバイス事業に携わることができたのは、本当にひょんなことからで、とても突然のことでしたが、お話を伺った時「ぜひやってみたい！」と強く思ったことを覚えています。それは、この上野に予想を超える多くの外国の方が住んでいるという信じ難い事実があり、彼らが何のため、なぜ上野に？ということなど、私の知識が全くと言っていい程、なかったからかのかもしれません。10年以上もこの土地に住んでいるにもかかわらず・・・。

実際この業務が始まってからは、何もかも初めての私にとって決して容易なものではありませんでしたが、毎日が勉強、そしてこの事業をよりよいものにするため、日々私たちは試行錯誤の中、やってきたのだと思います。その中で私たちは話し合いを多く持つよう心掛けていました。相談内容から日常業務のこと、日本と母国との違いなどについて。様々なことを話すなかで文化、考え方の違いからスタッフ内でも行き違いや誤解なども多々ありましたが、コミュニケーションをしっかりととることにより、お互い何でも話すことのできるような信頼関係が築けたのだと思います。それが相談者にも伝わったのか、安心して相談して頂けるようになっていったと思います。相談内容は多岐にわたり、回答は必ずしも一つではなく、何一つ私たちが決めることはできませんが、相談者の笑顔は私たちにとって何ものにもかえ難いものでした。このアドバイス事業が期間限定だったことは本当に残念ですが、これにとどまらず、すべての人にとって住みよい町であってほしいと願います。

最後になりましたが、県民局の皆様、伊賀の伝丸関係者の方々、短い間でしたが大変お世話になりました。皆様のご活躍を期待しております。

外 子 浦 仁 美

アドバイス事業スタッフとして働いて

外国人アドバイス事業日本人スタッフとして採用されて3か月、ようやく業務にも慣れてきた今、もうすぐこの仕事も終わってしまうのだ と思うと、少し寂しいような、残念なような気持ちになります。もともと「伊賀の伝丸」のボランティアメンバーとして、活動させて頂いており、この業務もその延長線上にあるような思いで、たいして深い考えも心構えもないままに始まった業務でしたが、外国人の方々からの相談が多種多様にわたり、また大変複雑で容易に解決できない問題も発生してくることに、改めて驚かされ、時に胸を痛めながら、過ごしてきた3か月でした。日本人である自分が日本の社会のしくみや制度に疎く、恥ずかしい思いをしたことも度々、単に外国人の方々のお手伝いをするだけではなく、この仕事を通して私自身も学びの場を与えられ、貴重な経験をさせて頂けたと感謝しています。代表の和田さんは、「この仕事は民生委員の仕事だね」といつも仰っていました。私もその表現があまりにもこの業務にぴったりなので、思わず笑ってしまうほどでしたが、それもただの民生委員の仕事ではないのです！細々とした生活相談から子どもの教育、労働上のトラブル、離婚調停、生活保護、と問題は数かぎりなく、しかも言葉や生活習慣の違い等の問題もからみあって、解決への道を一層遠いものになっています。しかしそれだけに、問題が解決し、相談者のほっとした顔を見た瞬間、「ありがとう！」の声を聞いた瞬間には、それまでの苦労も忘れてしまうような喜びを得られる、やりがいのある仕事だと強く感じます。短い期間でしたが、スペイン語担当のアルベルト・ゴメスさん、ポルトガル語担当の弘中クリスタアネさん、と共に楽しい有意義な時を過ごさせて頂けた事は、私にとって大切な宝物になることでしょう。ありがとうございました！

松 尾 弥 美

外国人アドバイス事業を終えて

「知らない」ということがもたらす不利益は非常に大きい。この「知らない」ことが、外国人の日本での生活を不便にさせていることがある。また、日本を「知らない」ことで、日本人には常識と映ってしまう行動をとってしまい、それを「知らない」日本人が、外国人をマイナスイメージで受けとめる。「知らない」ということは多くの誤解も生じさせるものである。

この事業を通して、様々なことを知ることが出来た私たちスタッフは幸せである。特に外国人スタッフの成長は素晴らしく、元々日本語能力の高かった彼らではあるが、いろんな相談内容に対処する知識とその手段を身に付けたように思う。今後はたくさんの外国人の相談にのってくれることでしょう。

今回、この事業が期間限定であったことは残念ではありますが、この事業に携わる機会をいただいたことに感謝するとともに、この事業が多文化共生社会の実現への一助となることを願っております。

森 本 早 織